

## 保険において、オンラインプラットフォームは経済的・社会的な便益を約束する一方で、消費者保護および競争の観点から試練を与える

チューリッヒ、2018年12月4日 – オンラインプラットフォームは保険市場における透明性を促し、取引コストや情報の非対称性を低減する可能性があります。これらの要素は往々にして競争の進展や社会福祉と結び付けられます。しかしながら保険業界において主導的な役割を担う国際的シンクタンクであるジュネーブ協会の新しい研究レポートによれば、オンラインプラットフォームはまた消費者保護および競争に関する新たな試練も提起しており、これらは政策担当者が対処すべき課題です。

『バーチャル競争：保険におけるオンラインプラットフォーム、消費者成果と競争』と題するレポートの示すところでは、オンラインプラットフォームを通じた透明性の向上にとともに、保険を購入する際の制約となる行動バイアスが克服され、また消費者が複雑な保険商品を比較するのが容易になり、彼らの特定のニーズに最も適した商品を見つけやすくなる上で助けとなる可能性があります。

オンラインプラットフォームは消費者利益を提供する一方で、潜在的なリスクをも発生させています。たとえば、消費者にとってオンラインプラットフォームが提供している情報は最善の利益となることが確保される必要があります。過剰な簡素化や偏りのある情報は、検索結果、ランキング、その他オンラインプラットフォームが生み出す情報が個人ユーザーの選好を必ずしも反映していないことを仄めかしています。他にも、オンラインプラットフォームが大量の個人データを利用することにより、押し付けがましき、公平性、差別についての懸念を生じさせています。

ジュネーブ協会のAnna Maria D'Hulster事務局長は、「恩恵とリスクのトレードオフを再評価する必要性が重要な政策課題を提起しています。例えば、保険購入にかかわる消費者の責任と権利に関する課題、あるいはオンラインプラットフォームは欧州連合で先行しているのと同じような透明性および公平性に関する規制を受けるべきかどうか、といった課題です。」と述べています。

競争的かつ繁栄した市場を確保するために、政策担当者はデータの持つ役割を生産要素として捉え、またデータそのものが潜在的な参入障壁となることを、市場影響力や潜在的な反競争的行為を評価する際に認識すべきでしょう。

ジュネーブ協会の特任アドバイザーで当研究の主執筆者であるBenno Keller氏は、「オンラインプラットフォームにより収集されたデータは、伝統的な会社に対する競合優位性の源泉と成るかもしれませんが。このことは利用者に対して門番のような役割を果たす、支配的なプラットフォームを出現させる可能性があります。」とコメントしています。

このレポートではまた、バリューチェーン上、異なるプレイヤーがそれぞれの異なる役割を果たしている複雑なデジタルエコシステムにおいて保険が提供される際に、保険固有の市場行動規制がいかに守られるのかについて疑問を提起しています。

以上

**2 ページサマリー**

コンタクト

Daniel Perez-Whitaker

渉外担当ディレクター

+41 44 200 4906

[daniel\\_perezwhitaker@genevaassociation.org](mailto:daniel_perezwhitaker@genevaassociation.org)